

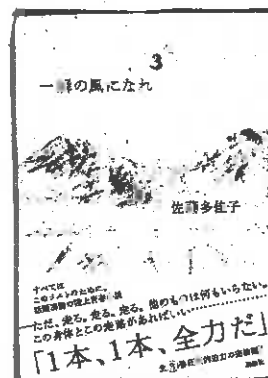
先生のお薦めの一冊

『一瞬の風になれ』全3巻 佐藤 多佳子 著 (講談社)

英語科 上畠 栄美子 先生

運動音痴で長年劣等感に苛まれてきた私が、陸上競技だけで3巻にもなる長編小説を読破したなんて、自分でも驚くべきことだった。しかも、まるで自分がスプリンターとして風を切って走っているかのような錯覚に陥ってしまう上に、最後には感動が沸き上がり、忘れられない作品として心に残っている。

2年前に長男が中学校に入学し陸上部に入部した頃、なんとなく書店で手に取って購入してみた。主人公の新二は、中学校でサッカー部に所属していたが、高校入学時にサッカー部ではなく陸上部に入り、陸上競技のことはよく分からないまま、仲間や顧問の先生とともに陸上競技の苦しさや楽しさを経験し、2年生・3年生となるにつれて成長していく話である。天才的なスプリンターである幼なじみの連や、Jリーガーの卵として活躍している兄と、なかなか記録の伸びない自分を比べて苦しんだり、それでも練習に没頭したりする姿は、高校生である皆さんなら誰でも共感できるだろう。自分の力不足に悩みながらも、目標に向けて努力を続けた結果、最後にはインターハイ出場を果たす。実話に基づいたこのストーリーは、真剣にそして誠実に物事に向き合うことがいかに大切かということを教えてくれる。皆さんが、新二にとっての陸上競技と同じような何か大切なものを見つければ、自分なりに進化していくことを切に期待する。ぜひ、この本を手にとってみてほしい。



この本は、
2007年本屋大賞
受賞作品です!

図書委員 お薦めの一冊!

文化祭の図書委員会の展示で紹介した「図書委員のお薦めの本」です。

なかなかの力作揃い(自画自賛)でしたので、「図書日和」でも紹介させていただきます!

『旅猫レポート』有川 浩 著 (文藝春秋)

宮脇 悟は、彼の愛してやまない飼い猫・ナナと一緒に旅に出た。銀色のワゴンに乗った彼らの最後の旅なのである。そう、この旅は猫の引き取り手を探す旅で・・・。

『人生ニャンとかなる 明日幸福をまねく68の方法』水野 敬也 著 (文響社)

つらい時、苦しい時、なんだかテンションが上がらない時・・・。そんな時はネコの手を借りちゃおう! ためになる言葉、スツと笑ってしまう言葉など68の言葉で、かわいいネコたちが、あなたに幸福をまねいてくれます! ぜひ、お読みください! *大好きな皆さんには『人生はワンチャンス!』水野 敬也 著 (文響社) をお薦めします!

『世界から猫が消えたなら』川村 元気 著 (マガジンハウス)

30才の郵便配達員、余命残りわずか。彼は生きるために、世の中のものを消すという契約を悪魔と結んでしまいます。電話、映画、時計、猫・・・。さまざまなものが消えた世界では、何がどう変わっていくのでしょうか。

『食堂かたつむり』小川 糸 著 (ポプラ社)

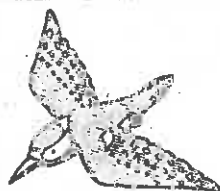
本なのに、おなかがいっぱいになります!・・・ある日、バイトから戻ってきたら、家の中は空っぽだった。インド人の恋人に家具をすべて持っていかれた私は、たった一つ残ったぬか床を手にとり、ふるさとに戻った・・・。ショックで声が出なくなった主人公を温かく見守るふるさとの人たち。未だに打ち解けることができない母との関係。今までの人生で味わってきたことが、全て料理のスパイスになる・・・。胸もいっぱいになる本です。

5月の貸出統計

*1年生 137冊 *2年生 403冊 *3年生 127冊 合計 667冊

(4月の貸出は、1年・337冊 2年・89冊 3年・121冊 合計547冊でした。)

学年	1年								2年								3年							
	組	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7
貸出数	11	39	18	16	14	10	12	17	59	101	8	25	90	53	40	27	18	4	8	5	56	16	5	15
合計	137冊								403冊								127冊							



速報*新着図書

- ・『冬の詠』あさの あつこ 著 (光文社)
- ・『虚ろな十字架』東野 圭吾 著 (光文社)
- ・『イギリスからの手紙』林 望 著 (東京堂出版)
- ・『ピアニストたちの祝祭』青柳 いづみこ 著 (中央公論新社)
- ・『先生、ワラジムシが取っ組み合いのケンカをしています!』小林 朋道 著 (築地書館)
- ・『間違えやすい日本語』前田 安正 著 (すばる舎)
- ・『スペードの3』朝井 リョウ 著 (講談社)
- ・『豆の上で眠る』湊 かなえ 著 (新潮社)
- ・『メディアの苦悩』長澤 秀行 編 (光文社)

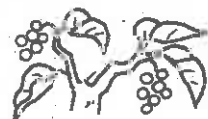
トルストイの民話を読む

トルストイといえば、19世紀のロシア文学を代表する作家のひとりです。トルストイの代表作『戦争と平和』『アンナ・カレーニナ』などの作品は、当時の政治や社会にさえも大きな影響を与えたと言われています。このような壮大な文学作品を創作する一方で、心温まる数多くの民話も数多く残しています。

トルストイの民話を集めた『トルストイの散歩道』(全5巻・あすなろ書房)というシリーズがあります。その中には『イワンの馬鹿』も納められています。(トルストイの作品であったことに驚きます!) どんな話だったか忘れてしまった人は、ぜひ、もう一度、読んでみてください。「トルストイの民話は老若男女を問わず、あらゆる階層の人々に親しみやすい平易さと簡潔さの中に深い真理が含まれている(訳者あとがきより抜粋)」といわれます。19世紀に生きたトルストイの言葉の数々は、21世紀を生きる私たちにも響いてきます。

『戦争と平和』は途中で挫折してしまっただけけれど、『トルストイの散歩道』シリーズなら読破できる・・・という人も多いのではないのでしょうか。ひとりでも多くの皆さんに読んでほしい民話集です。

参考文献:『トルストイの散歩道』全5巻 トルストイ著 北御門 二郎 訳(あすなろ書房)



編集後記

何気なく見たカレンダー、もう7月・・・。ちょっと焦ってしまいます。暑い夏にこそ「努力の汗」を流さねばと思っはいるものの、暑さに負けてしまいそうです。きっと規則正しい生活こそが、夏を乗り切る秘訣なのかもしれません。試験を乗り切った先には、希望に満ちあふれた何かが残っているに違いない・・・と信じて、この夏も頑張ります!

お忙しいところ、快く原稿をお書きいただいた上島先生、有難うございました。走ることが苦手でも、本の世界では「風を切って走る」ことができることを教えていただきました。多くの皆さんに読んでほしい一冊です。

新しい本も、少しずつ入ってきました。読書の楽しさを味わって頂けたら嬉しいな・・・と思います。この夏も、大いに敬愛館を利用してください!